



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年11月8日

上場会社名 株式会社ヨコオ 上場取引所 東
コード番号 6800 URL <https://www.yokowo.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 徳間 孝之
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 SCI本部長 (氏名) 多賀谷 敏久 (TEL) 03-3916-3111
半期報告書提出予定日 2024年11月8日 配当支払開始予定日 2024年12月10日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	40,809	10.9	2,105	—	1,064	△37.5	575	△40.0
2024年3月期中間期	36,794	△8.5	△120	—	1,701	△74.0	958	△77.1

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △156百万円(—%) 2024年3月期中間期 2,834百万円(△54.6%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	24.68	—
2024年3月期中間期	41.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	76,157	49,714	65.2
2024年3月期	76,408	50,384	65.8

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 49,634百万円 2024年3月期 50,303百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	22.00	—	22.00	44.00
2025年3月期	—	24.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	82,000	6.6	4,450	175.1	3,650	△1.6	2,350	55.4	100.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) 株式会社ナンシン 、除外 1社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	23,849,878株	2024年3月期	23,849,878株
2025年3月期中間期	539,085株	2024年3月期	539,008株
2025年3月期中間期	23,310,828株	2024年3月期中間期	23,310,915株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の本資料に記載されている業績見通し等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期(中間期)決算短信(添付資料)4ページ「1. 当中間期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
(1) 当中間期の経営成績に関する説明	2
(2) 当中間期の財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当中間期決算に関する定性的情報

(1) 当中間期の経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における売上高は、VCCS及びCTC並びにFC・MDセグメントが前年同期比で増収となったことなどにより、40,809百万円(前年同期比+10.9%)となりました。営業損益につきましては、VCCSセグメントの損益が大幅に改善して安定化したことに加え、CTC及びFC・MDの両セグメントも第1四半期に続き黒字となったことなどにより、2,105百万円の利益(前年同期は120百万円の損失)となりました。経常損益につきましては、期末為替レートが円高方向に推移したことによる為替差損1,034百万円を計上したことなどにより、1,064百万円の利益(前年同期比△37.5%)となりました。親会社株主に帰属する中間純損益につきましては、経常減益のほか、中国市場における需要低迷による当社子会社での人員整理・解雇を進めたことに伴う事業構造改善費用など241百万円を特別損失に計上したことにより、575百万円の利益(前年同期比△40.0%)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

① VCCS(主要製品：車載用アンテナ)

当セグメントの主要市場である自動車市場は、世界的な半導体不足・部品供給停滞などの影響が緩和され、販売は改善方向に向かっておりますが、世界経済減速などを受けて新車需要の回復は鈍化傾向にあります。地域別でも、米国/中国/日本国内市場を中心に販売台数は横ばいしないしはわずかに減少しました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ/GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの販売は、日系自動車メーカーの中国市場向けが不振となったことに加えて一部顧客の生産調整の影響を受けたことなどにより、前年同期比では微減となりました。

この結果、当セグメントの売上高は27,714百万円(前年同期比+4.6%)と、円安効果などにより前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、現地通貨高に伴う中国/ベトナム生産拠点における労務費などの増加があったものの、製造体制の見直しや安定受注による生産効率向上などにより、1,389百万円の利益(前年同期比+93.8%)となりました。

② CTC(主要製品：半導体検査用ソケット及びプローブカード)

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、PC/スマートフォン向けが依然として低調に推移し、産業機械/自動車向けの伸びが鈍化しているものの、生成AI関連の需要の高まりにより、全体としては緩やかな回復が続いております。

このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、ロジック半導体検査用ソケットなどの受注が減少したものの、生成AI関連の検査需要取り込みなどにより、前年同期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売は、高周波電子部品検査用MEMSプローブカード(YPX)の販売が伸び悩んだものの、周辺機器を含めてワンストップでソリューションを提供するターンキービジネスが増加したことなどにより、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は7,467百万円(前年同期比+20.7%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、増収に伴う増益に加え、原材料価格下落による原価低減や製品ミックスの良化などにより、789百万円の利益(前年同期は461百万円の損失)となりました。

③ FC(主要製品：電子機器用微細コネクタ)・MD(主要製品：医療機器用部品/ユニット)

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、ウェアラブル端末の多様化・高機能化により今後の成長が期待されるほか、スマートフォンの出荷台数は前年同期比で増加しました。POS端末市場についても、物流/製造を始めとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長が見込まれ、需要は堅調に推移しております。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするFC事業におきましては、顧客の生産調整が解消されたことなどによりPOS端末向けの受注が回復し、ワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売も堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

MD事業につきましては、主要顧客である国内大手医療機器メーカー向けのカテーテル用部品/ユニット品の販売が増加したことに加え、当社が製造パートナーとして参画しているベンチャーエコシステム向けの販売が堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は5,461百万円(前年同期比+39.9%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、FC事業における増収に伴う増益などにより、347百万円の利益(前年同期は46百万円の損失)となりました。

④ インキュベーションセンター(主要製品:MaaS/IoT向けアンテナ及びソリューション)

当社は、MaaS/IoTなどの新規成長市場や、高速大容量通信に向けた光通信市場に対し、新たなビジネス創出・ビジネスモデル革新を目指して、本格的な事業展開に取り組んでまいりました。前第1四半期連結会計期間の組織変更に伴い、これら新たな事業分野の開拓を既存事業部から切り離し、プラットフォーム事業と先端デバイス事業で構成されるインキュベーションセンターを報告セグメントとして区分しております。当セグメントの主要市場であるMaaS/IoT市場は、カーシェアリングなどモビリティの進展、あらゆるものがインターネットにつながるIoTの普及に伴い、順調に成長するものとみられております。

このような状況の中、プラットフォーム事業におきましては、IoT向けのスマートアンテナ技術を活用したMIMOアンテナや、MaaS/レンタカー向け車載鍵管理ソリューションの拡販を進めました。

当セグメントに含めております先端デバイス事業につきましては、光通信市場向けに光電変換デバイス技術を活用した光コネクタの量産化に向けた体制構築を推進してはりましたが、半導体検査市場向けの光電融合プロジェクトとして発展的に解消しました。

この結果、当セグメントの売上高は163百万円(前年同期比△21.3%)と、前年同期比で減少しました。セグメント損益につきましては、展開初期の新規事業が中心の当セグメントにおける売上高は小規模なものとなっており、投資が先行している段階にあることから、430百万円の損失(前年同期は337百万円の損失)となりました。

(事業セグメント別連結売上高)

(単位:百万円、%)

	前年度上期 自 2023年4月 至 2023年9月	前年度下期 自 2023年10月 至 2024年3月	当年度上期 自 2024年4月 至 2024年9月	前年同期比	前半期比
	売上高	売上高	売上高	増減率	増減率
VCCS	26,491	29,092	27,714	+4.6	△4.7
CTC	6,188	6,397	7,467	+20.7	+16.7
FC・MD	3,903	4,469	5,461	+39.9	+22.2
インキュベーション センター	207	138	163	△21.3	+18.2
その他	4	2	2	△52.1	△27.0
合 計	36,794	40,101	40,809	+10.9	+1.8

(2) 当中間期の財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における資産は、現金及び預金増加572百万円、売上債権増加417百万円がありましたが、棚卸資産減少875百万円、有形固定資産減少597百万円などにより、76,157百万円(前連結会計年度末比250百万円の減少)となりました。現金及び預金の増加は、営業増益などによるものです。また、棚卸資産の減少は、円高に伴う在庫評価の円貨換算額減少などによるものです。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債は、仕入債務減少110百万円、リース債務減少196百万円がありましたが、賞与引当金増加391百万円、長期借入金(一年内返済予定の長期借入金を含む)増加371百万円などにより、26,443百万円(前連結会計年度末比419百万円の増加)となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、為替換算調整勘定減少539百万円、親会社株主に帰属する中間純利益575百万円の計上、配当金支払512百万円などにより、49,714百万円(前連結会計年度末比669百万円の減少)となりました。

(自己資本比率)

当中間連結会計期間末における自己資本比率は65.2%(前連結会計年度末比△0.6ポイント)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、一部顧客の生産調整を見込み、今年度中は継続するものと想定しております。
- ・半導体検査市場につきましては、2023年3月期下期以降の半導体市場の落ち込みに底打ち感が出てきたことに加えて、生成AI関連の半導体検査需要が引き続き拡大するものと想定しております。
- ・携帯通信端末市場につきましては、POS端末など電子機器端末向けの需要が、過剰在庫の解消に伴い緩やかに回復するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、カテーテル等を用いた低侵襲医療への需要が順調に伸長するものと想定しております。
- ・MaaS/IoT市場につきましては、モビリティの進展やIoTの普及に伴い、順調に成長するものと想定しております。
- ・業績予想の前提となる為替レートを、本年11月以降当期末までを1米ドル=145円(前回予想時は1米ドル=140円)としております。

このような前提のもと、通期の業績予想につきましては、当中間連結会計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、全社売上高及びセグメント別売上高を下表のとおり修正いたします。営業利益につきましては、想定為替レートを円安方向に見直したことにより、VCCSセグメントにおいては減益を見込む一方、CTC/FC・MDセグメントにおいては増益が見込まれることから、下表のとおり修正いたします。経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、想定為替レート1米ドル=145円のもと、為替差損800百万円を見込み、下表のとおり修正いたします。

通期(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2024年8月8日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	80,000	82,000	+2,000	+2.5
VCCS	55,100	55,600	+500	+0.9
CTC	14,800	15,300	+500	+3.4
FC・MD	9,800	10,800	+1,000	+10.2
インキュベーション センター	300	300	—	—
その他・調整額	—	—	—	—
営業利益	4,100	4,450	+350	+8.5
VCCS	3,050	2,800	△250	△8.2
CTC	1,200	1,650	+450	+37.5
FC・MD	650	750	+100	+15.4
インキュベーション センター	△800	△750	+50	—
その他・調整額	—	—	—	—
経常利益	3,000	3,650	+650	+21.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,000	2,350	+350	+17.5

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,702	19,275
受取手形及び売掛金	13,129	13,547
商品及び製品	8,445	7,878
仕掛品	470	468
原材料及び貯蔵品	5,860	5,554
その他	2,563	2,199
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	49,169	48,920
固定資産		
有形固定資産	19,754	19,156
無形固定資産	1,642	2,347
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	1,114	1,163
その他	4,727	4,569
投資その他の資産合計	5,841	5,733
固定資産合計	27,238	27,237
資産合計	76,408	76,157
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,310	6,199
短期借入金	6,158	6,106
1年内返済予定の長期借入金	1,600	1,659
未払法人税等	518	679
賞与引当金	904	1,295
その他	4,134	4,050
流動負債合計	19,625	19,990
固定負債		
長期借入金	4,500	4,812
退職給付に係る負債	547	597
その他	1,350	1,042
固定負債合計	6,398	6,452
負債合計	26,023	26,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,819	7,819
資本剰余金	7,804	7,804
利益剰余金	28,418	28,480
自己株式	△635	△635
株主資本合計	43,407	43,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,084	912
為替換算調整勘定	5,463	4,924
退職給付に係る調整累計額	348	327
その他の包括利益累計額合計	6,896	6,164
非支配株主持分	80	80
純資産合計	50,384	49,714
負債純資産合計	76,408	76,157

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	36,794	40,809
売上原価	31,803	33,017
売上総利益	4,991	7,791
販売費及び一般管理費	5,111	5,686
営業利益又は営業損失(△)	△120	2,105
営業外収益		
受取利息	64	50
受取配当金	32	40
為替差益	1,895	—
その他	47	56
営業外収益合計	2,040	146
営業外費用		
支払利息	133	96
持分法による投資損失	31	30
為替差損	—	1,034
その他	52	26
営業外費用合計	217	1,187
経常利益	1,701	1,064
特別利益		
固定資産売却益	4	2
特別利益合計	4	2
特別損失		
固定資産除却損	29	13
固定資産売却損	0	4
事業構造改善費用	233	224
減損損失	11	—
特別損失合計	274	241
税金等調整前中間純利益	1,431	825
法人税、住民税及び事業税	606	514
法人税等調整額	△129	△270
法人税等合計	477	243
中間純利益	953	581
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△5	6
親会社株主に帰属する中間純利益	958	575

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	953	581
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	282	△171
為替換算調整勘定	1,609	△544
退職給付に係る調整額	△11	△21
その他の包括利益合計	1,880	△737
中間包括利益	2,834	△156
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,830	△156
非支配株主に係る中間包括利益	3	0

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,431	825
減価償却費	1,960	1,974
減損損失	11	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	213	364
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△21	△30
受取利息及び受取配当金	△97	△90
支払利息	133	96
為替差損益(△は益)	△1,122	433
持分法による投資損益(△は益)	31	30
固定資産除却損	29	13
固定資産売却損益(△は益)	△3	1
売上債権の増減額(△は増加)	597	△893
棚卸資産の増減額(△は増加)	911	490
仕入債務の増減額(△は減少)	△668	588
その他	277	64
小計	3,682	3,869
利息及び配当金の受取額	97	90
利息の支払額	△96	△85
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△477	57
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,205	3,933
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,974	△1,253
有形固定資産の売却による収入	4	48
無形固定資産の取得による支出	△369	△734
投資有価証券の取得による支出	—	△47
関係会社株式の取得による支出	△26	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	18
短期貸付けによる支出	△245	—
その他	17	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,594	△1,921
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,500	—
長期借入金の返済による支出	—	△14
リース債務の返済による支出	△245	△239
配当金の支払額	△579	△511
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	675	△765
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,499	△733
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,786	512
現金及び現金同等物の期首残高	17,687	18,702
現金及び現金同等物の中間期末残高	19,473	19,214

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	調整額 (注)3	合計
	VCCS	CTC	FC・MD	インキュ ベーション センター	計			
売上高								
日本	8,168	642	1,772	207	10,791	4	—	10,795
欧米	12,393	1,554	441	—	14,389	—	—	14,389
アジア	5,929	3,991	1,689	—	11,609	—	—	11,609
顧客との契約から 生じる収益	26,491	6,188	3,903	207	36,790	4	—	36,794
外部顧客への売上高	26,491	6,188	3,903	207	36,790	4	—	36,794
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	235	△235	—
計	26,491	6,188	3,903	207	36,790	239	△235	36,794
セグメント利益又は 損失(△)	717	△461	△46	△337	△128	△0	7	△120

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の営業損失と同額となっております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、人材派遣事業等を含んでおります。

3 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	調整額 (注)3	合計
	VCCS	CTC	FC・MD	インキュ ベーション センター	計			
売上高								
日本	9,210	593	2,094	163	12,061	2	—	12,063
欧米	13,482	1,910	641	0	16,034	—	—	16,034
アジア	5,022	4,963	2,725	—	12,711	—	—	12,711
顧客との契約から 生じる収益	27,714	7,467	5,461	163	40,806	2	—	40,809
外部顧客への売上高	27,714	7,467	5,461	163	40,806	2	—	40,809
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	264	△264	—
計	27,714	7,467	5,461	163	40,806	266	△264	40,809
セグメント利益又は 損失(△)	1,389	789	347	△430	2,096	0	8	2,105

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と同額となっております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、人材派遣事業等を含んでおります。

3 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。